令和８年度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト　（ 県立熊谷高等学校　定時制 ）

目指す学校像	社会で「はたらく」生徒を育てる学校

重点目標	
	1　社会で生きる力を身に付ける指導の実践
	2　熊定愛を高める指導の実践
	3　保護者や関係機関と連携した教育活動の実践
	4　安心・安全な熊定づくりの推進

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	
A	ほぼ達成（８割以上）
B	概ね達成（６割以上）
C	変化の兆し（４割以上）
D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者
学校関係者　　名
生徒　　名
事務局(教職員)　　名

学校自己評価							学校関係者評価
年度目標					年度評価（１月２３日 現在）		実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 生徒の実態を踏まえた指導により授業満足度は高いが、学習意欲が低く欠点保有につながる者が少なからずいる。一方、進路決定率100%を達成した。 【課題】 「学びの基礎診断」を活用しているが１年生全員の基礎学力の向上にはまだ課題がある。また、１・２学期ともに欠点を保有する生徒が多い。	○生徒の学習意欲の向上及び基礎学力の定着 ○進路意識の向上	①学びの基礎診断のまとめテストの実施（年間７回） ②欠点保有者数の減少（特に１・２学期ともに欠点保有する者の減少） ③教員相互の授業見学の実施 ①進路面談（年２回）及びハローワークや企業、上級学校等と連携した進路指導の充実	①「学びの基礎診断」における学習達成率（年間の平均点７０点以上生徒の割合）の増加 ②学期ごとの欠点解消補習の継続実施（１学期欠点保有者への２学期以降の声かけ） ③評価アンケート（授業満足度）の肯定的な評価割合の増加（特に、「自ら進んで学習課題に取り組んでいる。」割合前年度比＋５%） ①進路希望調査における未定者の割合の減少				
2	【現状】 ＳＣや社会的養護施設等と連携するなど、きめ細かい指導に取り組んでいる。 校歌を歌える生徒の割合が高学年を中心に高くなってきている。 【課題】 多様で様々な背景をもつ生徒が多く在籍している。低学年では校歌を歌える割合があまり高くない。	○相談体制のさらなる充実 ○学校行事や部活動の活性化	①ＳＣ等と連携した生徒理解 ②面談指導の充実 ①主体的に取り組む学校行事の企画・立案や部活動の活性化 ②式典や行事等での校歌を歌う機会の確保	①新入学生及び転編入学生全員へのカウンセリング及びＳＳＷや自治体関係機関との連携 ②生徒一人一人の実態に応じた面談の実施（必要に応じて家庭訪問） ①学校行事への出席率の増加及び部活動加入率の増加 ②校歌が歌える生徒の増加（前年度比＋３０%）				
3	【現状】 学校案内等を公表するとともに、学校説明会を実施するなど、本校の魅力や定時制の特色を発信している。 【課題】 保護者や生徒との連絡を確実にするためのメール配信システムの登録者割合のさらなる向上	○効果的な広報活動の実施（定時制の特色のアピール） ○メール配信システム加入率の向上	①ＨＰの更なる充実 ②学校説明会の参加者の増加 ③学校行事、公開授業等、広報活動の充実（保護者等の参加者の増加） ①生徒・保護者へのメール配信システム加入の周知・徹底	①定期的なＨＰの更新及び行事だけでなく授業の様子も掲載するなど内容の充実等 ②学校説明会の参加者数及び学検志願者数の増加 ③学校行事、公開授業、給食試食会等への保護者等の参加率の増加 ①メール配信システムの加入率の向上（昨年度比＋１０%）				
4	【現状】 施設・設備の安全維持に努めるとともに、自校給食実施校として衛生面での安全・安心の確保に努めている。 【課題】 登下校時の事故防止（自転車運転マナーの向上、自転車ヘルメット着用への意識向上）	○施設・設備、給食点検の実施及び定期的な交通安全指導の実施 ○給食喫食率の向上	①巡回による日常的な設備点検の実施 ②自転車、自動二輪車、自動車使用者へのルールの徹底。自転車点検の実施 ③給食点検、検食の確実な実施 ①献立表・給食だよりでの周知（毎月）、リクエスト給食・セレクト給食の実施	①ＨＲ教室や使用教室の安全点検の実施及び速やかな修繕 ②登下校時の交通事故件数０ ③安全に配慮した給食の提供 ①給食を食べる生徒数の増加				